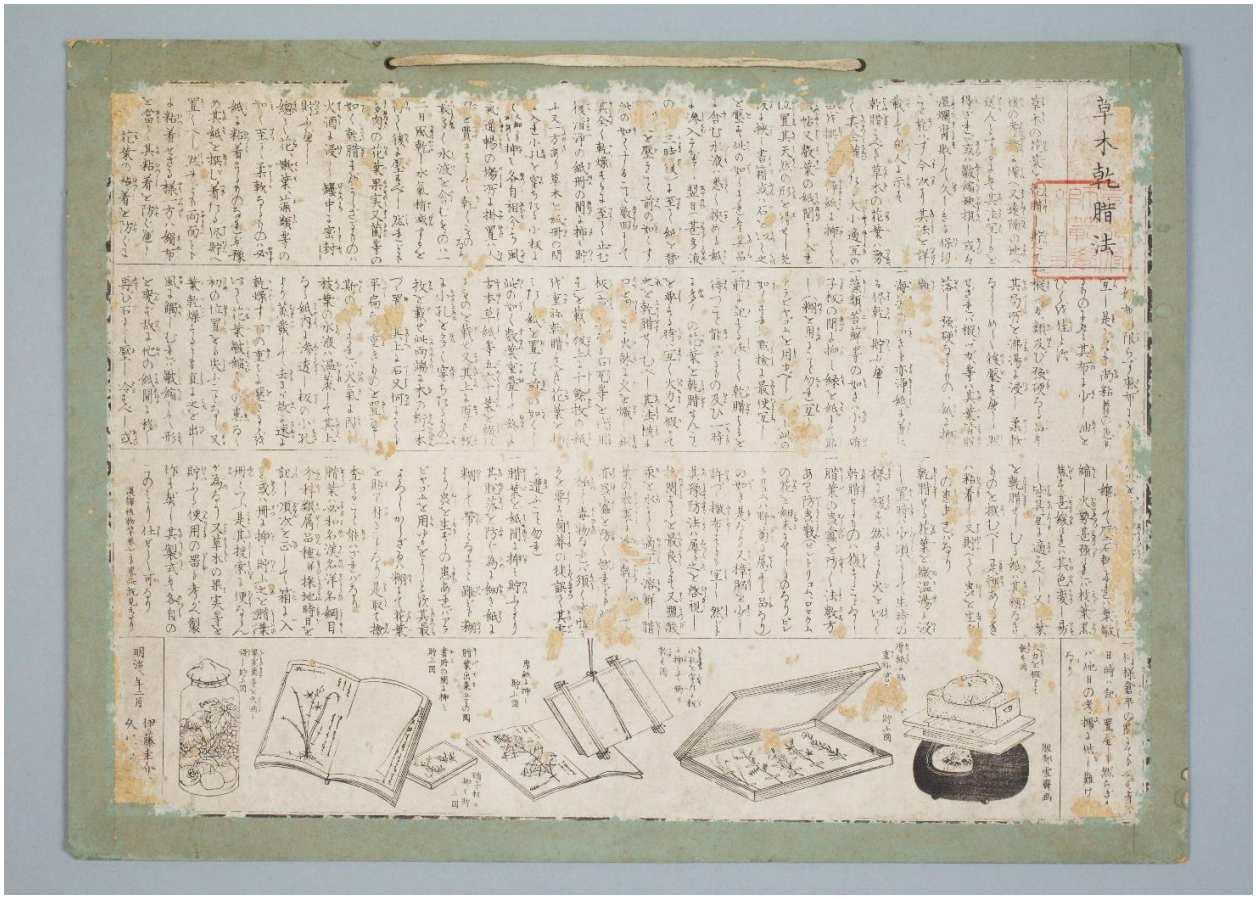
京都教育大学 教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品

NO.53 2021.06～2021.07

京都市伏見区深草藤森町1
☎：075-644-8175
✉：manabi@kyokyo-u.ac.jp

MUSEUM OF EDUCATION



「草木乾腊法」

伊藤圭介　作　久保弘道　校正　1875 年（明治 8 年）

この資料は植物標本の作成法を解説したものです。題目の中の「腊」（セキ、シャク、きたい）の漢字は魚や鳥の丸干しの意味です。植物には水分が多量に含まれていますので、そのままでは標本として保存できません。草本植物、木本植物ともに、植物の形を整えて古新聞などの吸い取り紙にはさみ、上に重しを置きます。何度も新聞紙を交換して水分を取り、乾燥させた後に、台紙に貼り付けて標本を完成させます。1875 年（明治 8 年）という早い時期に、詳細な植物標本の作成方法が「草木乾腊法」として既に広められていました。温めて乾燥させる方法、標本の保管方法なども図で示されています。

この「草木乾腊法」は CiNii で検索すると、数件の大学にしか保存されていない貴重なものです。著者の伊藤圭介氏(1803-1901)は、江戸末期に蘭学、長崎でシーボルトから本草学を学び、日本の植物学の黎明期に貢献された人です。

本学に残るこの図書は、生物図書室のスチール本棚の奥に残されていたものが、校舎を耐震補修する際に偶然見つけられました。京都府師範学校として本学が開校したのは 1876 年（明治 9 年）です。その前年に刊行された資料がずっと大切に保管されていました。

執筆者：梶原裕二（理学科 教授）

※附属図書館で展示しています。